

令和3年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立鴨沂高等学校 】

1 実践テーマ	【 IV 】
2 実施対象者	第3学年3組（京都文化コース）生徒 40名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（ 京都文化科（学校設定教科） 「京都の産業文化」(学校設定科目)(第3学年京都文化コース生徒40名))
4 目標 (ねらい)	外国の大学生や外国の大学で日本語や日本文化を教えておられる先生との交流活動や講義を通して、国際感覚やコミュニケーション能力を磨くとともに、「オリンピック・パラリンピック」に関連して、多文化共生、異文化理解、自文化発信（京都の伝統・文化の発信）の在り方等について考え、これからの国際社会で必要な能力を身に付ける。
5 取組内容	(1) ガイダンス ① ガイダンスー目的及び年間授業計画についての概説。 ② 概要 ア 異文化理解、多文化共生など、国際的な課題について考える。 イ 取り組んだ内容の中から、グループごとにテーマを設定し、外国人留学生に対して発表するプレゼン原稿を作成する。 (2) 「課題設定」 他国や他の地域の文化と自文化（京都・日本の文化）を比較し、自文化の良い面を整理し、外国人留学生に紹介したいことについて考える。他の人のアイデアを参考に、グループテーマを絞る。 (3) 「調査・研究」 グループごとにテーマについて調べる。 (4) 「キーノート」で、プレゼンテーション作成 (5) 「相互評価」 外国の大学生への発表に向けて、各班クラス内で発表後、相互に評価し、内容を修正する。

(6)「外国人留学生との国際交流」(令和3年7月9日)

講師 中国閩江大学外国語学部 寺坂 義彦 氏 (来校)
(遠隔システム「zoom」による交流)

対象：神戸松蔭女子学院大学

ベトナム留学生 2名、中国留学生 3名

大阪大学大学院 中国留学生 1名

- ① 事前学習 国際交流・異文化理解について
- ② 鴨沂高校 京都文化コース生徒による学校紹介
- ③ 寺坂先生による講義 (国際交流において大切なこと)
- ④ 留学生自己紹介・文化紹介発表
- ⑤ 質疑応答 (高校生から、留学生へ)
- ⑥ 鴨沂高校 京都文化コース生徒による文化紹介発表
「各班発表テーマ」
1 和食 2 和菓子 3 祭 4 建築・寺
5 着物 6 暮らし・伝統文化 7 遊び 8 アニメ

⑦ 全体での質疑応答・交流など



(7)「『現代社会の課題とその解決法』『これからの国際交流の在り方』について学ぶ」(令和3年12月10日)

講師 中国閩江大学外国語学部 寺坂 義彦 氏 (来校)

① 事前学習

現代社会の課題 (身近な京都の課題、または、国際的な課題 SDGs 関係等) からテーマを絞り、その解決の方策について考える。各自テーマについて調べ、「キーノート」で、プレゼンテーションを作成する。クラス内で発表し、優秀なものを選ぶ。

② 鴨沂高校文化コース生徒による発表 (テーマ)

「文化資源を活用した地域コミュニティの活性化」
「家族の形の変化と地蔵盆」「近年の空き家増加について」
「京野菜の機能性」「SDGs 1位の京都から学ぶ」
「地球温暖化」「目指せ 温室効果ガス削減」
「在日外国人への差別」

③ 寺坂先生による講義 (異文化理解、国際交流において大切なこと)

よりよい世界を築いていくために、日本の文化や京都の文化の良い面を世界にどのように発信していけば良いか、これからの国際交流の在り方はどうあるべきかなど



④ 質疑応答

(8) 成果物作成 (個人研究)

研究論文作成

6 主な成果	<p>(1) コロナ禍の中、留学生とはオンラインによる交流となったが外国人留学生との交流を通して、国際交流のあり方や各国の文化についての理解が深まった。</p> <p>(2) ICTツール（ロイロノート、キーノート）や、ICT設備環境（ギガスクールWi-Fi環境、電子黒板等）、ICT端末（貸与タブレット・BYOD）などを最大限に活用することで、効率的・効果的に、各取組を実施することができた。</p> <p>(3) 本校「京都文化コース」に設定されている、教科（京都文化科）・科目（2年次：「日本の風土と文化」、3年次：「京都の産業文化」）における2年間の学びの成果を、文化交流の趣旨に沿って、発揮することができた。</p>
7 実践において工夫した点 (事業の特色)	<p>(1) ICTの活用</p> <p>① ICT環境</p> <p>ア ギガスクールWi-Fi環境。</p> <p>イ ICT端末 (iPad 貸与)。</p> <p>ウ 電子黒板・プロジェクター等。</p> <p>② ICTアプリケーション</p> <p>ア 「クラッシー」(生徒意見の集約、等)。</p> <p>イ 「ロイロノート」(スライド作成、等)。</p> <p>ウ 「キーノート」(スライド作成、等)。</p> <p>(2) 担当者間での綿密な調整</p> <p>グローバルな視点に立って国際文化交流する際に注意すべきことについて、講師の方と事前に相談し、留学生や本校生徒にとってより適切な取組となるよう、綿密な調整を重ねながら進めた。</p>
8 主な課題等	<ul style="list-style-type: none"> • 取組の成果の共有化に向けた発信や提言の為の外部との連携。 • 校内指導体制作り、活用事業等の継続性。
9 来年度以降の実施予定	<p>オリンピック・パラリンピックの理念の一つでもある「友情」や「尊重」、「勇気」あるいは「文化」などの普遍的価値を、外国人留学生やフランス姉妹校ジュールゲード国際高校等との交流を通して、次年度においても継続したいと考える。</p>